

エデュケーション

タラ・ウェストーバー著

村井理子・訃

TARA・WEB
TOVER 86年米
アイダホ州生まれ、
歴史家、エッセイスト

ストセラーとなり、オバマ元大統領夫妻やビル・ゲイツ氏が絶賛した自伝。書いたのは、アイダホの山の中で、政府を悪と信じる一家に育ち、独学で大学に入学、ついには英ケンブリッジ大学で博士号を取得した女性である。こう書くと「ビリギャル」のアメリカ版のように聞こえるかもしれないが、主題は大学教育の効用というより、家族と虐待と独立の話である。

モルモン教に由来する父の宗教心は、西部の孤立した家族集団に時おり見られるように、公教育や近代医学を敵視する極端な陰謀論に転化している。Y2K（西暦2000年）問題を聖書に預言された終末と信じるあたりは、19世紀以来の新

レンブラントの身震い

マーカス・デュ・ソートイ著

富永
星訳

人工知能（A.I.）の発達によって人間の仕事が減る懸念される今、「創造性」が人間の最後の砦として注目されている。脳の創造性を生かせば、A.I.に負けない

はそのような私たちの希望が、果たして維持できるかどうかを検証する。

人工知能の可能性問う

評・茂木 健一郎（脳科学者）



「学び」が人生切り開く

評・森本 あんり（国際基督教大教授）

興キリスト教に典型的なパターングだが、神の国の到来をライフル銃と食料の備蓄で迎えようとするのは、現代のトランプ支持者にも通じるいかにもアメリカ的な逸脱である。

じるいかにもアメリカ的な逸脱である。

五

験がなければ、眞の芸術は不可能だというのである。コンピューター畠暮からアート、数学の証明、そして自然言語処理まで。A.I.と人間の創造性について、オックスフォード大学で数学を研究する著者の洞察は、深く、スリリングだ。創造性の背後にいる情報の符号化、「コード」の大

切さに人類で最初に気づいたのは19世紀に機械式計算機のプログラムをしたエイダ・ラブレイスだった。一方、著者は、芸術家がインスピレーションで生み出しているかに見える作品には、実は隠された脈絡と論理、つまりコードがあると指摘する。

コードの分析は、読み応えがある。バッハのような大作家の作品に秘められた数学的な構造を解き明かす叙述は、とりわけ素晴らしい。新しいものを生み出す力の中心にある「人間のコード」の正体をめぐって、「素数の音楽」など多くの世界的ベストセラーを送り出してきた著者の知性と筆がさえ渡る。

A.I.は「震驚」を引き起こすほどの人間の創造性に追いつき、追い越すことができるのか？この究極の問いに対する、現時古での最高の洞察が本書の中にある。

の虐待も心を蝕む」と語っている。虐待は被虐者に、自分が無価値な存在だと思いつ込まれてしまつからである。

は書いた。自分の物語を書くことは、傷を癒やし、自分を傷つけた相手を理解し直すことにつながるからだ。

ス・2750円
(新潮クレスト・ブック)

BOOKS

エデュケーション

タラ・ウェストーバー著、村井理子訳



が変われば、自己理解も変わり、自分の尊厳を守ることにも自覚めでゆく。そして彼女は書いた。自分の物語を書くことは、傷を癒やし、自分を傷つけた相手を理解し直すにつながるからだ。

ラーとなり、オバマ元大統領夫妻やビル・ゲイツ氏が絶賛した自伝。書いたのはアイダホの山の中で、政府を悪と信じる一家に育ち、独学で大学に入学、ついには英ケンブリッジ大学で博士号を取得した女性である。こう書くと「ビリギヤル」のアメリカ版のように聞こえるかもしれないが、主題は大学教育の効用というより、家族と虐待と独立の話である。

モルモン教に由来する父の宗教心は、西部の孤立した家族集団に時おり見られるように、公教育や近代医学を敵視する極端な陰謀論に転化している。Y2K（西暦2000年）問題を聖書に預言された終末と信じるあたりは、19世紀以来の新興キリスト教に典型的なパターンだが、神の国の到来をラ

イフル銃と食料の備蓄で迎えようとするのは、現代のトランプ支持者にも通じるいかにもアメリカ的な逸脱である。

そのような家族の呪縛から、どのようにして抜け出し、自分の人生き切り開くことができたのか。彼女はインタビューで「どんな形の虐待も心を蝕む」と語っている。虐待は被虐者に、自分が無価値な存在だと思いつてしまふからである。

著者は、兄が開いてくれた教育へのわずかな機会を掴んで必死に紹介するコミックは、中学生の悠久人と元バレリーナの琥珀が、誰も知らない「地図にない場所」のことから交流が始まり、琥珀のストレートな感情表現に悠久人は次検したのではないでしようか。今回紹介するコミックは、中学生の悠久人と元バレリーナの琥珀が、まぜんが、ゆっくり変化していくことになります。愛でも友情でもあります。悠人の心を繊細に描いており、この物語最大の魅力となっています。



安藤ゆき
地図にない場所 1

安藤ゆき著 小学館・650円(既刊1巻)

小説のような読後感

地図にない場所

注目の「コミック」

す。

幼い頃、誰しも一度は都市伝説の真相を突き止めようと近所を探検したのではないでしようか。今回紹介するコミックは、中学生の悠久人と元バレリーナの琥珀が、誰も知らない「地図にない場所」を探しながら自分を見つめ直していくヒューマンストーリーです。悠久人は、勉強についてゆけず「人生終わつた」と思い始めていました。そんな中、天涯孤独になつた。そんな中、琥珀が帰国。回覧板を届け

・堀井麻衣

（BOOKSなかだファボーレ店）

のテンポのよさと、徐々に交わっていく心模様は、小説をじっくり味わった読後感に似ています。大人の方に読んでいただきたい充実の一冊です。



エデュケーション

自己理解と尊厳の目覚め

タラ・ウェストーバー著、
村井 理子訳

新曜社
2200円



と國分は言う。仲間とともにありながらも、自分の過去や傷と丁寧に向き合いい、感じ、葛藤すること。そうすることで人は初めて、罪に応答できる人に、責任をとれる人に、変化していくのだ。迷つたり煮詰まつたりひらめいたり、濃密でぜいたくな時間をくれる書。

(伊藤亞紗・東京工業大准教授)

全米で400万部超のベストセラーとなり、オバマ元大統領夫妻やビル・ゲイツ氏が絶賛した自伝。書いたのは、アイダホの山の中で、政府を悪と信じる一家に育ち、独学で大学に入学、ついには英ケンブリッジ大学で博士号を得した女性である。こう書くと「ギャル」のアメリカ版のように聞こえるかもしれないが、主題は大学教育の効用というより、家族と虐待と独立の話である。

モルモン教に由来する父の宗教心は、西部の孤立した家族團に時おり見られるように、公教育や近代医学を敵視する極端な陰謀論に転化していく。Y2K（西暦2000年）問題を聖書に預言された終末と信じるあたりは、19世紀以来の新興キリスト教に典型的なパターンだが、神の国到来をライフル銃と食料の備蓄で迎えようとするかもしないが、主題は大学教育の効用というより、家族と虐待と独立の話である。

著者は、兄が開いてくれた教育へのわずかな機会を掴んで必死にはい上がった。世界を理解する目が変われば、自己理解も変わり、自分の尊厳を守ることにも目覚めてゆく。そして彼女は書いた。自分の物語を書くことは、傷を癒やし、自分を傷つけた相手を理解し直すことにつながるからだ。

だが、それで万事がめでたく解決したわけではない。支配者は従属者の覺醒を喜ばず、家族の恥を晒した裏切り者を許さない。本書が出版されると、関わりのある親族は異論を唱え、母は自己弁護のために対抗本を自費出版した。家族は今なお分断されたままである。

それでもいい、と著者は言う。同じような境遇にある誰かが、新しく人生を選び直すチャンスになるならば。彼女はそれを教育と呼ぶ。

エデュケーション

タラ・ウェストーバー著、村井理子訳



全米で400万部超のベストセラーとなり、オバマ元大統領夫妻やビル・ゲイツ氏が絶賛した自伝。書いたのは、アイダホの山の中、政府を悪と信じる一家に育ち、独学で大学に入學、ついには英ケンブリッジ大学で博士号を取得した女性である。

こう書くと「ビリギャル」のアメリカ版のように聞こえるかもしないが、主題は大学教育の効用というより、家族と虐待と独立の話である。

モルモン教に由来する父の宗教心は、西部の孤立した家族集団に時おり見られるように、公教育や近代医学を敵視する極端な陰謀論に転化している。Y2K（西暦2000年）問題を聖書に預言された終末と信じるあたりは、19世紀以来の新興キリスト教に典型的なパターンだが、神の国到来をライフル銃と食料の備蓄で迎えようとするのは、現代のトランプ支持者にも通じるいかにもアメリカ的な逸脱である。

人生を選び直すチャンス

授

（森本あんり・国際基督教大教
授）

そのような家族の呪縛から、どのようにして抜け出し、自分の人生を切り開くことができたのか。彼女はインスピュード「どんな形の虐待も心を蝕む」と語っている。虐待は被害者に、自分が無価値な存在だと思い込まれてしまうからである。

著者は、兄が開いてくれた教育へのわずかな機会を掴んで必死にはい上がった。世界を理解する目が変われば、自己理解も変わり、自分の尊厳を守ることにも目覚めてゆく。そして彼女は書いた。自分の物語を書くことは、傷を癒やし、自分を傷つけた相手を理解し直すことにつながるからだ。

だが、それで万事がめでたく解決したわけではない。支配者は従属者の覚醒を喜ばず、家族の恥を晒した裏切り者を許さない。本書が出版されると、関わりのある親族は異論を唱え、母は自己弁護のために対抗本を自費出版した。家族は今なお分断されたままである。

それでもいい、と著者は言う。同じような境遇にある誰かが、新しく人生を選び直すチャンスになるならば。彼女はそれを教育と呼ぶ。

TARA · WESTOVER 1986年米アイダホ州生まれ、歴史家、エッセイスト。英ケンブリッジ大で歴史学の博士号を取得後、米ハーバード大公共政策大学院で上級研究員を務める。

早川書房・2420円